

## インターバンクの声（2017年9月27日）

24日のドイツ総選挙で与党が議席を減らしてしまい、連立交渉も難航しているとの見方によるユーロ売りの進行が、対円でのドル買いにも影響しているようだが、112円台の中盤に差し掛るとその勢いもなくなる傾向が21日のFOMC以降ずっと続いている。

それでも昨夜は、8月の米新築住宅販売や9月の米消費者信頼感指数が市場予想を下回ったにも関わらずドル売りには反応せず、ドル買いを続けるのに躊躇し出したのは、イエレンFRB議長の発言がきっかけだった。

議長は講演で、力強さに欠ける物価動向は一時的だとの見解を示し、不透明感があるのは否めないものの、段階的な利上げの継続が必要だとした。市場では同議長の見解がややタカ派的と捉えた人も少なくなかったが、一方で12月の利上げの可能性を示さなかったとして12月の追加利上げ見通しには慎重になるべきとの捉え方もあったようだ。

いずれにしろ北朝鮮情勢を巡っての地政学リスクが相場の重石になっている状況に変わりはないが、ドル円を中心に為替相場は米長期金利の変化には敏感になっている。ただ米10年債利回りもなかなか2.3%水準を越えて来ず、113円台は近くて遠そうだ。

---

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。